

令和6年度第2回赤磐市地球温暖化対策実行計画推進協議会 議事録

日 時	令和 6 年11月18日(月) 9:30~11:30
場 所	赤磐市役所3階 第1会議室
出席者	赤磐市地球温暖化対策実行計画推進協議会委員(以下、敬称略) 木村幸敬、光成良充、佐々木武重、柴奥貴志、平井修二、原地慶充、武村和彦、高橋宏彰、古澤慶一、岡本尚子 事務局 赤磐市:矢部市民生活部長、安藤環境課長、佐々木副参事、 題府主査、木原主事 業務支援業者:共同企業体 赤磐市再エネ R&M
議 事 内 容	
1. 開会 2. 議事 (1) 赤磐市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)素案の説明 赤磐市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)素案について事務局より説明した。 ※資料『赤磐市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)素案』 (2)アンケート及びヒアリング結果について ・市民・事業者・若年世代に対するアンケートの実施報告 アンケート実施結果について事務局より説明した。 ※資料『市民アンケート実施結果について』、『事業者アンケート実施結果について』 『若者アンケート実施結果について』、『市民・事業者・若年世代に対するアンケートの実施報告』 ・赤磐市内事業者に対するヒアリングの実施報告 ヒアリング実施結果について事務局より説明した。 ※資料『市内企業へのヒアリング』 ・地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に反映したい内容 赤磐市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)素案について協議をした。 ◆意見・質疑応答 (委員)ZEH は脱炭素にどれぐらいの効果が出てくるのか。 (事務局)ヒアリングを行ったハウスメーカーでは ZEH に対して非常に積極的に取り組んでおり、2023 年新築の 97%が ZEH を達成。他社大手メーカーも新築の場合は同レベルで、100%を目指している。大手でないところも、断熱、省エネを推進しているので新築に関してはこれから進んでいくと感じている。効果そのものは数%レベルだがやっているということで効果があると考えている。 (委員)計画の目的がまったく書かれていないため、最初の方に明確に書いた方がいい。	

実現可能性について疑問であり、予算措置はどう考えているのか。

産業分野では CO2 削減は当然でスコープ 3 の段階になってきている。中小企業の場合は実害が顕在化しないと進まない。

(事務局)まず、目的についてはこの計画自体の位置づけを明確になるようにしっかり書きたい。

次に予算措置について公共施設等は市の予算となるが、事業者や家庭は市としての後押しについての方
向性を計画の中で書いていければと考えている。

この計画自体は脱炭素に向けた市の方向性を示していき、具体的な取り組みはこの計画に基づいて各年
度のその時点で実施計画を作って市として予算取りをしていくことになる。

環境省、経産省は来年度ぐらいまでは計画作りに手厚く補助をしているが、今後は民間企業に対する補助
が手厚くなっていくのではと考えている。

(委員長)ため池活用など景観との兼ね合いを心配される方がいるのではないかと心配している。

バランスを取りながら進めてほしい。

(事務局)赤磐市のポテンシャル調査で主力となっている太陽光発電設備は進めていかなければならな
い。赤磐市は景観条例が無く規制が無いが、太陽光発電設備の適正な設置及び管理に関する条例を設置
しており、地域との調和を求めている。

(委員)隣の農地で太陽光発電をされると聞いた方が土地の持ち主と交渉して土地を買った。

こういったことが出てくる可能性はゼロではない。

(委員長)太陽光を設置できるところには景観に配慮しながら設置するのが現状だと思う。

(事務局)ポテンシャルはポテンシャルであって本当に実現できるかは別である。ポテンシャルの何割がで
きるのかは個別に調査しなければいけない。ため池の所有者は市がほとんどで水利権は農業者が持つて
いるケースが多い。場所が山の中だったり、民家に近いところにあったり、電線を引くのにお金がかかる
ため費用対効果を含めさまざまな事を考えながら議論をして考えていかなければならない。

(委員)ため池に太陽光を設置する場合渡り鳥とか自然環境への配慮はあるのか。

(事務局)設置するため池により配慮した形をとるべき。規模によっては環境アセスメントの手続きにより
判断する。

(委員)農業用水として使われていないため池を管理するために事業者に入ってもらった方がいいとい
ったケースもある。生物多様性への対応は勿論考慮することにより、一方で太陽光設備があることで光を
さえぎって藻の繁殖を抑え、池を適正な状態に保つ効果がある。

また、水位計を設置して大雨が降った時に素早い対応ができたり、民間が地域と一緒に水害に対しての管
理ができるため一概にデメリットばかりではない。

(事務局)赤磐市で、ため池の太陽光発電施設は沢原池、太田池の 2 カ所ある。

ため池の管理には費用が掛かるが事業者が入ることによってお金がおりて池の管理費に回せている。

事前に事業者が入って双方合意の上で設置しているいい事例がある。

(委員)アンケートの回答率は一般的なアンケートと比べてどうだったか。

(事務局)郵送で行なう場合はおおむね 30%くらいを目安にしている。今回は 25%ほどだった。

(委員)地球温暖化対策の重要性や、必要性が周知されていないと感じる場面がある。
今後進めて行くうえで、どのように機運を高め、市民への周知はどのように対応されていくのか。

(事務局)脱炭素の取組の重要性について市が市民や事業者の方に伝えていかなければならない。
計画を立てることによって取組みが定まってくるため、計画の中に書いていって、市民の意識向上、業者の取組に対する支援をしっかりとやっていきたいと考えている。
今回の計画は大枠をお示しするものだが、一方で具体的に何をしたらいいのかを市民に伝えていくため、普段の生活の中での取り組みについてわかりやすく示せるようなガイドブックをつくり、市民や事業者の皆さんにご理解頂きたいと考えている。

(委員)大手企業に比べて中小企業向けの支援がなかなか進んでいない。他の県で中小企業様への支援に取り組まれているところがあれば教えてほしい。

(事務局) 他の自治体でも小規模事業者への取組の推進は課題になっている。
2030 年までの比較的短期的な取組を進めて頂くための啓発活動やセミナー、岡山県でも進めている省エネアドバイザーや省エネ診断といったものの周知や機会をつくるのが小規模事業者への取組と考えている。市単独の費用での取り組みをしていくのは難しいので県や国の補助金を活用していきたい。

(委員)温暖化対策について森林が果たす役割は大きい。達成にはかなりの努力が必要と考えている。
農業についてはあいまいな内容かと思う。ハウスの温度をあげればいいという物ではなく管理まで実際に木質バイオマスでできるのかという部分が気になった。耕作放棄地の太陽光発電はどういう状態での設置となるのか。

(事務局)ソーラーシェアリングとは営農型の太陽光のことで、営農型というのは実際の農業をしながらその上で太陽光発電をする形式。他の地域でも事例があり、農林水産省でも推進している。
農作物により適しているものとそうでないものがあるが、改めて事例をお示ししたい。
木質バイオマスについては、果樹剪定枝をチップにしてそれを農業用ハウスに使う加温機の燃料として使い温度管理をするもので、わかりやすい形で事例としてお示しできたらと思う。
赤磐市内で取り組むには農家の皆さんの考えや温度管理等々の技術的な問題や、剪定枝の集め方を組み立てないと出来ないということを農協から伺い理解した。赤磐市内で検討に値するかどうかというところから考えて行かないといけないと思っている。

(委員)県の計画の記載について誤りがあるため修正してほしい。
気候変動適応計画を今回入れるのか。また、促進区域の設定も区域施策編の何かですることは考えられているのか。国の交付金を取りに行く時に有利なため入れられたらどうか。

(事務局)県の計画に関する書き方について協議させていただきたい。気候変動適応計画策定についての予定はない。促進区域の設定については少し検討させて頂きたい。

(4)その他

・次回協議会スケジュールの確認について行った。

3. 閉会